



アマミトゲネズミ



オキナワセッコク



リュウキュウカジカガエル



イボイモリ



クロイワトカゲモドキ



ウラキヤマタカマイマイ



イリオモテヤマネコ



ナキオカヤドカリ



アマミマルバネクワガタ



ヤンバルクイナ



奄美・沖縄の
希少な
いきもの



※ 沖縄島北部とは、国頭村、大宜味村、東村の3村を含む「やんばる地域」を指します。

世界自然遺産って何？

世界遺産には3種類(文化遺産、自然遺産、複合遺産)あります。

PAGE:02

琉球列島はどのように作られたのか？

奄美・沖縄の希少ないきもの

琉球列島の成り立ち



中期中新世 (約1200万年前)

琉球列島はユーラシア大陸と繋がっていました。そのため、大陸に生息・生育している いきもの が、自由に行き来していました。



後期中新世～更新世初期 (約1200万年前から200万年前)

大規模な地殻変動により、ユーラシア大陸に「沖縄トラフ」という海域ができました。その後、沖縄トラフが広がり、大陸と切り離され琉球列島が誕生しました。
この時代に、トカラ海峡、ケラマ海裂、与那国海峡ができ、中琉球と南琉球に分かれました。大陸と切り離されてしまった為、いきもの の行き来が出来なくなりました。



更新世初期～現在 (約200万年前以降)

地殻変動により、中琉球の島が分断されました。
9万年前頃、氷期・間氷期が何度も訪れた為、南琉球は台湾などの近くの島と繋がったり離れたりを繰り返しました。
大陸と繋がった時、大陸からヤマネコなど、いくつかの いきもの が南琉球に渡ってきたとも考えられています。



現在

このような過去を経て現在の琉球列島が形成されました。
琉球列島には様々な種類の いきもの が生息・生育しています。

💡 遺存固有種とは？

大陸に同じ種や近い関係の種がいたものの、絶滅してしまい、今は琉球列島だけに生息している いきもの 。



アマミノクロウサギ



ケナガネズミ

💡 新固有種とは？

もともと同じ種の いきもの でしたが、島が分断されたことにより、それぞれの島の環境の中で独自に進化を遂げていき、別々の種になった いきもの 。



クロイワトカゲモドキ



オキナワトゲネズミ

奄美・沖縄の希少ないきもの

琉球列島の成り立ち

森が多い島の謎

奄美・沖縄は亜熱帯地域といわれています。世界的に見ると、奄美・沖縄と同経度にある地域のほとんどは、乾燥した草原や砂漠が多く、奄美・沖縄の自然とは大きく異なります。これには海・風・台風が関係しています。

島の周りには海が広がり、黒潮(水温が高い海流)が流れています。そのため、島々に湿った空気が運ばれてきます。また、夏には台風が上陸し、大量の雨を運んできます。

これらの影響から奄美・沖縄は、他の地域と比べて水が豊かで、年間を通じて暖かいこともあり、亜熱帯に森が発達しているのです。

北緯20～30度の間に位置する地域



(やんばる野生生物保護センターWebサイトより引用)

常緑広葉樹林

奄美・沖縄の植物は比較的平らな高木層が見られ、幹の太さに対して低いのが特徴です。台風による強風で、木の成長が妨げられているのでは、といわれています。

また、台風の強風によって木が倒れてしまう事があります。木が倒れたすきまから森の中に光が差し込み、新たに植物が生えるため、植物の多様性が高くなっています。

奄美・沖縄の大きな木はイタジイやオキナワウラジログシ等があります。特にこの2種類が実らせるドングリは、森の中で生息するいきもの達にとって大切な食料になっています。



イタジイ(木)



イタジイ(実)



オキナワウラジログシ(木)



オキナワウラジログシ(実)

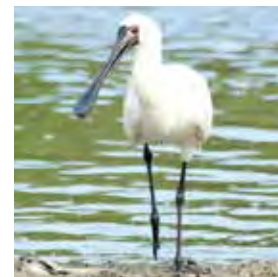
溪流

奄美・沖縄では頻繁に雨が降るため、河川は増水と減水を繰り返しています。

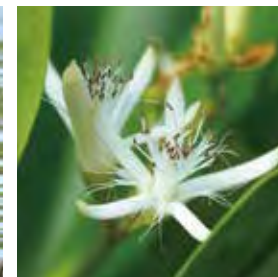
台風のように短時間に大量の雨が降ると、川の水量は急に増し、差の大きい場所では2～3mにもなります。そのような環境に生育する植物は溪流植物と呼ばれ、大量の雨が降ったときには激しい流れにもまれ、水が減ると乾燥してしまう特殊な環境に適応した植物です。

水の抵抗を少なくするために、葉の大きさや形などに様々な特徴をもっていることが多く、絶滅が心配されている植物もたくさんあります。

(マングローブ周辺で見ることの出来る いきもの たち)



クロツラヘラサギ



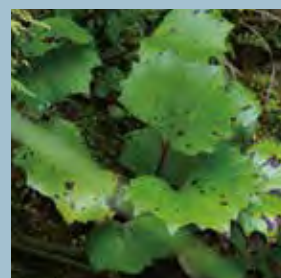
メヒルギ(花)



コムラサキオカヤドカリ



カワセミ



溪流型リュウキュウツワブキ

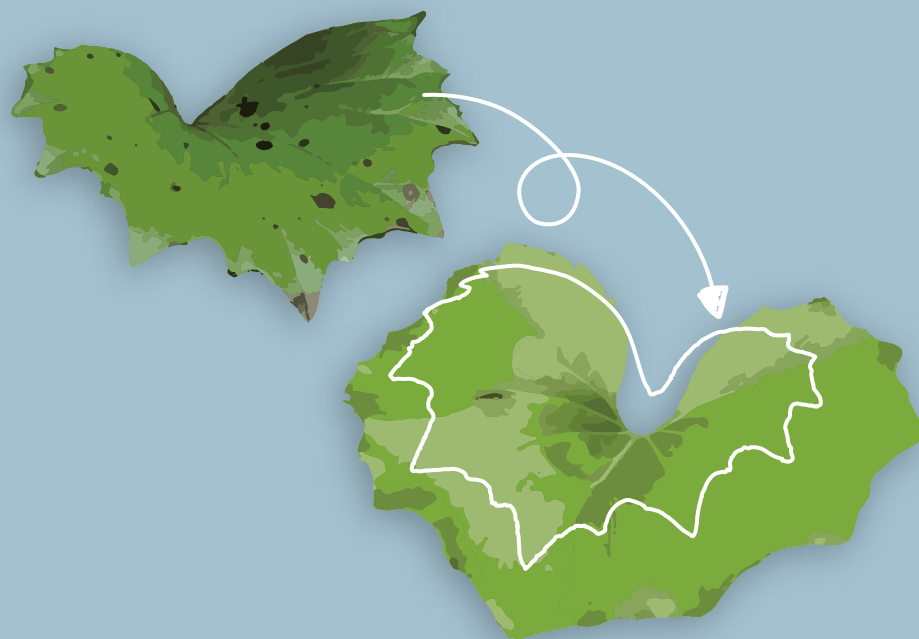
溪流型

リュウキュウツワブキ

光を多く取り入れるため、葉を広げ大きく育ちます。しかし、溪流型のリュウキュウツワブキは、水の増減や水流に耐えるため、葉先が尖った形状になります。通常の葉と比べるとサイズも小さくなるのが特徴的です。



リュウキュウツワブキ

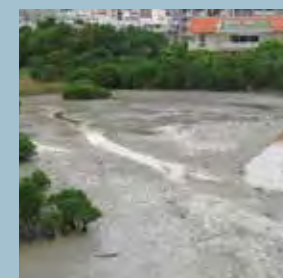


満潮時



漫湖(沖縄島)

干潮時



漫湖(沖縄島)



(溪流域で見ることの出来る いきもの たち)



コケタンボ



リュウキュウアユ



オキナワオオミズスマシ



リュウキュウハグロトンボ

マングローブ林

川の河口や内湾など、海水と淡水が混じり合う干潟などの汽水域に生育している植物をまとめてマングローブと呼び、日本にはオヒルギ・メヒルギなどを含む7種類が生育しています。

海の満ち潮や引き潮によってマングローブ林の環境は変化します。潮が満ちると、樹木の下はプランクトンを豊富に含んだ海水につかるため、魚達が集まります。潮が引くと、広い干潟が生まれカニやミナミトビハゼなどが姿をだし、それを狙って鳥たちが集まります。マングローブ林の周辺には、多様ないきものを育む生態系が出来ているのです。

奄美・沖縄の豊かな自然環境に
育まれた いきもの たち、
個性豊かなオモシロイ いきもの に
出会う旅にでかけよう!!

日本国内では、これまで633種の鳥類が記録されていますが、そのうち420種類もの鳥類が奄美・沖縄で確認されています。渡りをしない鳥は40種類ほどで、ほとんどが渡り鳥なのが特徴です。渡り鳥たちの中継地点として、島々はとても重要な場所です。

カンムリワシ

国特天 国内希少 CR

学名:Spilornis cheela

大きさ:全長約55cm 羽を伸ばすと約150cm

分布:石垣島と西表島

渡り:わたりません

食べ物:カエル・ヘビ・トカゲ・カニ・昆虫など

生息:林や湿地、畑やマングローブ林など



いきものの交通事故が増えています

カンムリワシは交通事故にあったカエルやヘビ、鳥などをエサとして食べることがあります。道路上でエサを食べることに夢中になってしまい、近づいてくる車に気づかず事故にあってしまうのです。また、道路は動物たちにとって通り道にもなっています。

運転する際は法定速度を守るだけではなく、路上や路肩にいるいきものの存在にも注意してください。

後頭部に冠羽があるから
“カンムリワシ”だよ!!



鳴き声は「キョキョキョキョー」

ヒナは体に模様がなく、まっ黒だよ!!



木登りはできるけど、上手に降りられないんだ。でも、夜に地上で寝るとハブに襲われてしまうかもしれないから、樹の上で寝るよ。

ヒタキ科の鳥で、体長は14cmくらい。



オス



メス

オスは顔から胸が黒いから、すぐに性別がわかるよ!!

ヤンバルクイナ

国天 国内希少 CR

学名:Gallirallus okinawae

大きさ:全長約35cm 翼長約15~16cm

分布:沖縄島(北部)

世界でも沖縄島の北部だけに住んでいます。カタツムリやミミズなどが大好物。鳥なのに飛べません。

ホントウアカヒゲ

国天 国内希少 EN

学名:Luscinia komadori namiyei

大きさ:全長約14cm

分布:沖縄島

世界でも沖縄島の北部だけに住んでいます。山に住んでいる鳥は近づく、すぐに逃げてしましますが、好奇心旺盛で何もしないで座っていると、近くまでよってきてくれます。こちらを観察しているようにも見えます。奄美大島にはアカヒゲがいるよ!!



アマミヤマシギ

県天 国内希少 VU

学名:Scolopax mira

大きさ:全長約36cm ずんぐり体型

分布:主に奄美群島

トゲネズミの名前のとおり全身にトゲ状の毛が生えています。



ネズミだけど、ウサギにみたいに
ジャンプ移動が得意!!

アマミトゲネズミ

国天 国内希少 EN

学名: Tokudaia osimensis

大きさ: 全長約9~16cm しっぽは約6~14cm

分布: 奄美大島

食べ物: イタジの種子やアリなど

生息: イジュやイタジの木に生育している

常緑広葉樹林など

外来種!!



フイリマングース(特定外来生物)

トゲネズミが生息する島には、もともと肉食の哺乳類が生息していませんでした。しかし、マングースやネコ等、肉食の外来種が島に入ってきた為、以前から島でくらしていたいきものたちは命を狙われるようになってしまいました。外敵がないからこそ、生き残っていたいきものたちはどうなってしまうでしょう。



オキナワトゲネズミ

(Tokudaia muenninki)

分布: 沖縄島

国天 国内希少 CR



トクノシマトゲネズミ

(Tokudaia tokunosimensis)

分布: 徳之島

国天 国内希少 EN

アマミノクロウサギ

国特天 国内希少 EN

学名: Pentalagus furnessi

大きさ: 体長約41.8~51cm

分布: 奄美大島、徳之島

アマミノクロウサギが住んでいる場所にはウンチが落ちています。それは、1度におよそ20~30個の丸いウンチをするからです。地面を注意して見てみましょう。

大人のウンチは2cmくらい。

子どものウンチは1cmくらいだよ!!



哺乳類

02

ネコ・ネズミ・コウモリ・ウサギが含まれるグループです。

奄美・沖縄の肉食 哺乳類は、西表島に生息するイリオモテヤマネコだけで、他は雑食性です。肉食 哺乳類が少ないことが奄美・沖縄の特徴の一つです。



ダイトウオオコウモリ

国天 国内希少 CR

学名: Pteropus dasymallus daitoensis

大きさ: 体長約20~25cm

翼を広げると約80cm

分布: 南大東島、北大東島



果物や花がだい好き♡



ヤエヤマオオコウモリ

(Pteropus dasymallus yayeyamae)

分布: 宮古諸島、八重山諸島



オリイオオコウモリ

(Pteropus dasymallus inopinatus)

分布: 沖縄島、周辺の離島(沖縄諸島)

イリオモテヤマネコ

国特天 国内希少 CR

学名: Prionailurus bengalensis iriomotensis

大きさ: 体長オス約55~60cm

メス約50~55cm

分布: 西表島

世界に生息しているネコの仲間は、ネズミやウサギなどの小型の哺乳類しか食べません。しかし、西表島には在来種がいないため、鳥やコウモリ、カエルやヘビの他、昆虫、エビなど様々ないきものを食べます。

知名度ナンバーワン!?



リュウキュウヤマガメ

国天 VU

学名: *Geoemyda japonica*

大きさ: 最大甲長約15.6cm

分布: 沖縄島北部、久米島、渡嘉敷島

食べ物: 昆虫、カタツムリ、ミミズなどの動物や、
葉っぱ、果実などの植物を食べる雑食性

生息: 常緑広葉樹林などの陸上で生息



ヤエヤマセマルハコガメ

(*Cuora flavomarginata evelynae*)

分布: 石垣島、西表島

国天 VU



カメだけと泳ぐのは苦手。
ほとんど水に入らないよ!!



名前に「ヘビ」とついてるけど、トカゲの仲間だよ。トカゲと比べるとシッポが長いことが特徴。また、まぶたの開け方がトカゲとは違うよ。

昔は個体数が多く、身近にいる いきもの の一つだったけど、最近では生息地の草地が少なくなったり、外来種などに捕まったりして少なくなっているよ。



トカゲ: まぶたが上下から閉じる。

カナヘビ: まぶたが下から閉じる。

ミヤコカナヘビ

国内希少 CR

学名: *Takydromus toyamai*

大きさ: 全長約16~22cm

分布: 宮古諸島



クメトカゲモドキ

(*Coniurosaurus kuroiwaie yamashinae*)

分布: 久米島

県天 国内希少 CR



オビトカゲモドキ

(*Coniurosaurus splendens*)

分布: 徳之島

県天 国内希少 EN



イヘヤトカゲモドキ

(*Coniurosaurus kuroiwaie toyamai*)

分布: 伊平屋島

県天 国内希少 CR



数の減少

開発による生息環境の縮小や交通事故、違法採取によって数が減少しています。また外来種に食べられてしまう場合もあります。
(ネコにおそわれているところを発見されたクメトカゲモドキ)

クロイワトカゲモドキ

県天 国内希少 VU

学名: *Goniurosaurus kuroiwaie kuroiwaie*

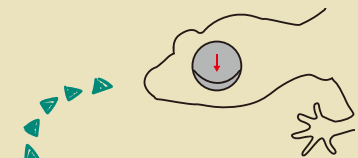
大きさ: 頭胴長約7.5mm~8.5mm

分布: 沖縄島、古宇利島、瀬底島

※沖縄島には広く分布しているが、南部と北部

では遺伝的にかなり違う

1回に2個の卵を5月~8月に3回産む



トカゲモドキ: まぶたが上から閉じる。

一度も切れたことがないシッポは、
帯状の模様だけど、切れて再生した
シッポはモザイク模様になるんだよ!!
ボクのはまだ切れたことがないよ。

ヤモリの仲間だけど、
指下板がないから木登りは苦手。
地上で活動してるよ。



爬虫類

03

トカゲの仲間(カナヘビ・ヤモリを含む)・ヘビ・カメなどが含まれるグループです。遺存固有種(p.03-04 参照)が多く、天敵が少ないため生き残ってこれたいきものたちです。DNAの研究が進んでいて、琉球列島の地史を考える上で非常に重要ないきものたちです。

ミナミヤモリ

(*Gekko hokouensis*)



指下板(しかいばん)

手足のうらにある幅広いうろこのこと。
細かなカギ状の毛が生えていて、この毛を
ガラスや壁にひっかけて登ることができるよ。

手足のうら

イボイモリ

県天 国内希少 VU

学 名:Echinotriton andersoni
大きさ:全長約14cm～20cm
分 布:奄美大島、徳之島、沖縄島、渡嘉敷島
産 卵:2月～6月頃 1回に50個ほどの卵を
水中ではなく、水辺のすぐ近くの陸に
産む

大きな肋骨があり、その先端が張り出してゴツゴツしているからイボイモリと呼ばれているよ。イモリの仲間では最も原始的な形なんだよ。



卵



幼生



幼体



成体



両生類と爬虫類のちがい

爬虫類と両生類の大きな違いは卵と幼生の時期にあります。両生類の卵は殻がなくぶよぶよしていますが、爬虫類の卵には殻があります。両生類の幼生期はエラで呼吸を行い、成長すると肺呼吸になりますが、爬虫類は生まれた時から肺呼吸します。

	卵	呼吸
両生類	殻がなくぶよぶよ	幼生期はエラ呼吸 幼体・成体は肺呼吸
爬虫類	殻がある	生まれた時から肺呼吸

ボクは沖縄島南部の個体で、
体表に模様が多く入っているよ!!



オキナワシリケンイモリ

学 名:Cynops ensicauda popei
大きさ:体長約10～12cm
分 布:沖縄島・瀬底島・渡名喜島・
阿嘉島・座間味島・慶留間島・
渡嘉敷島・浜比嘉島など

沖縄島でも南部と北部の個体群では
外見の模様が少し違うことが知られて
いるよ。

他のカエルはオスよりもメスが大きくなりますが、ナミエガエルの場合、メスよりもオスが大きくなります。
吸盤がない為、木に登ることはできません。特徴的なひし形の目をしています。



ナミエガエル

県天 国内希少 EN

学 名:Limnonectes namiyei
大きさ:体長オス約9～11cm
メス約7～9cm
分 布:沖縄島北部



コケむしたような模様は
カモフラージュになっているよ。
日本一美しいカエルと
言われているんだ!!

オキナワイシカワガエル

県天 国内希少 EN

学 名:Odorrana ishikawae
大きさ:体長約10～13cm
分 布:沖縄島北部

カエルの後ろに注目



タマゴを守ってます!



衝撃の青個体もいるよ!!

身近なカエル

市街地でも公園や少し湿った場所にはカエルたちがいます。この3種類はよく見るのできる種類です。ぜひ探してみよう。



ヒメアマガエル
(Microhyla okinawensis)
分布:奄美群島、沖縄諸島、先島諸島



リュウキュウカジカガエル
(Buergeria japonica)
分布:奄美群島、沖縄諸島、先島諸島



ヌマガエル
(Fejervarya kawamurai)
分布:奄美群島・沖縄諸島
※八重山諸島には別種サキシマヌマガエルが分布

両生類

04

カエル・イモリなどが含まれるグループです。
両生類のほとんどはカエルの仲間です。日本在来のカエルは42種いますが、そのうち22種が奄美・沖縄に分布しています(亜種含む)。奄美・沖縄のカエルたちは、冬も冬眠しないどころか、冬に産卵する種類が多いのが特徴の一つです。

アリ・セミ・トンボ・チョウ・バッタ・クワガタなどが含まれるグループです。
日本にはおよそ30,000種の昆虫類が生息しています。
奄美・沖縄には、約6,150種の昆虫類が生息しています。



リュウキュウウラボシジミ



オキナワキリギリス



ヒメホソサナエ



ケブカアメイロオアリ



アマミクマバチ



ヤエヤママドボタル



ミヤコニイニイ



アカシマサシガメ

ヨナグニマルバネクワガタ 国内希少 CR

学名: *Neolucanus insulicola donan*

大きさ: オス約38mm~62mm メス約38~51mm

分布: 与那国島

生息: あまり飛び回らず、育った木の周辺を歩き回る

VU

アマミマルバネクワガタ

(*Neolucanus protogenetivus protogenetivus*)

分布: 奄美大島、徳之島

NT

ヤエヤママルバネクワガタ

(*Neolucanus insulicola insulicola*)

分布: 石垣島、西表島

国内希少 EN

ウケジマルバネクワガタ

(*Neolucanus protogenetivus hamaii*)

分布: 諸島

国内希少 VU

オキナワマルバネクワガタ

(*Neolucanus okinawanus*)

分布: 沖縄島

マルバネクワガタなにかちがうの？



←オキナワマルバネクワガタ



←ヤエヤママルバネクワガタ



←ヨナグニマルバネクワガタ

分布地の違いだけでなく、
大あごの形が違います。

ウラキヤマトカマイマイ 国内希少 CR+EN

学名: *Satsuma hemihelvus*

大きさ: 殻の高さ約18mm 殻の幅約24mm

分布: 宮古島、伊良部島

生息: 森林性で木の上を好む

特にイヌビワの仲間やシマグワ



アオミオカタニシ NT

(*Leptopoma nitidum*)



他のカタツムリたちの目の位置も注意して見てみよう!

陸産貝類

06

一般的に呼ばれるカタツムリ、ナメクジが含まれるグループです。形は丸いものや平たいものから長いものまで様々です。同じ種類でも色が違ったり、場所によって少し形が変わったりします。



オキナワヤマトカマイマイ

(*Satsuma eucosmia eucosmia*)

分布: 沖縄島

VU



オモロヤマトカマイマイ

(*Satsuma omoro*)

分布: 久米島

VU



アマノヤマトカマイマイ

(*Satsuma amanoi*)

分布: 沖縄島南部

国内希少 CR+EN

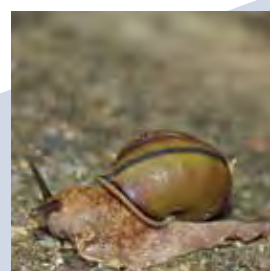


トクノシマヤマトカマイマイ

(*Satsuma tokunoshimana*)

分布: 徳之島

VU



オオシママイマイ

(*Coniglobus lewisii*)

分布: 奄美群島



DD

ベッコウマイマイ

(*Bekkochlamys perfragilis*)

分布: 沖縄島・久米島・奄美大島



CR+EN

ウロコケマイマイ

(*Aegista lepidophora lepidophora*)

分布: 沖縄諸島



CR+EN

サキシマヒシマイマイ

(*Satsuma sakishimana*)

分布: 宮古島・伊良部島



VU

ノミガイ

(*Tornatellides boeingi*)

分布: 奄美群島以南

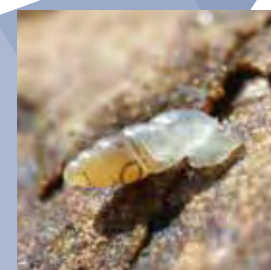


NT

ミヤコゴマガイ

(*Diplommatina immersidens*)

分布: 宮古島

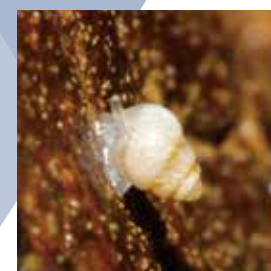


NT

ナガケシガイ

(*Carychium cymatoplax*)

分布: 沖縄諸島・八重山諸島



CR+EN

ホラアナゴマオカチグサ

(*Cavernacmella kuzuensis*)

分布: 沖縄島・八重山諸島



ヤエヤマヤマキサゴ

(*Aphanocoma yaeyamensis*)

分布: 宮古諸島・八重山諸島



ナガケシガイと1円玉です。とっても小さいけれど立派な大人。

在来種のカタツムリで1番大きい!!



ヤンバルマイマイと1円玉です。

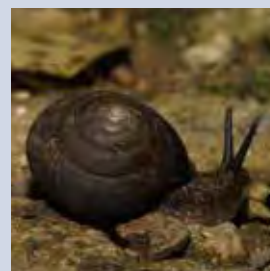


VU

ヤンバルマイマイ

(*Satsuma atrata*)

分布: 沖縄島北部

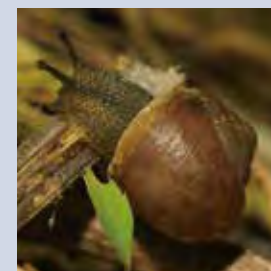


NT

イッシキマイマイ

(*Satsuma caliginosa caliginosa*)

分布: 石垣島・西表島



オキナワウスカワマイマイ

(*Acusta despecta*)

分布: 沖縄諸島以南



NT

シュリケマイマイ

(*Aegista elegantissima*)

分布: 沖縄諸島



NT

ナガシリマルホソマイマイ

(*Aegista melacoshimensis*)

分布: 波照間島・石垣島・西表島



陸封

トカシキオオサワガニ 国内希少 CR+EN

学 名:Geothelphusa levicervix

大きさ:甲羅の幅約60mm(オス最大)

分 布:渡嘉敷島

渡嘉敷島にのみ生息する固有種です。甲羅にヒョウ柄の模様があることが特徴です。溪流沿いや湿っている山地などに生息します。最近までオキナワオオサワガニと同じ種類とされていたのですが、別の種類として分類されました。

サワガニいろいろ

サワガニの仲間は、昼は穴の中や落ち葉の下などに隠れて、夜になると活発に活動する夜行性です。雑食性で何でも食べます。一生を淡水(塩分をほとんど含まない水)で過ごしています。



陸封

オキナワオオサワガニ

(Geothelphusa grandiovata)

分布:沖縄島

VU



陸封

イヘヤオオサワガニ

(Geothelphusa theya)

分布:伊平屋島

VU



陸封

ヒメユリサワガニ

(Geothelphusa tenuimanus)

分布:沖縄島

国内希少 CR+EN



陸封

サカモトサワガニ

(Geothelphusa sakamotoana)

分布:奄美大島・徳之島・喜界島・沖縄島

NT



陸封

ミヤコサワガニ

(Geothelphusa miyakoensis)

分布:宮古島

国内希少 CR+EN

卵の大きさをよく見てみよう!!

市町村条例で守っている地域もあるよ。



回遊

ヤシガニ

(Birgus latro)

分布:奄美大島以南

VU



陸封

ヤエヤマヤマガニ

(Ryukyum yaeyamense)

分布:石垣島・西表島



陸封型と回遊型

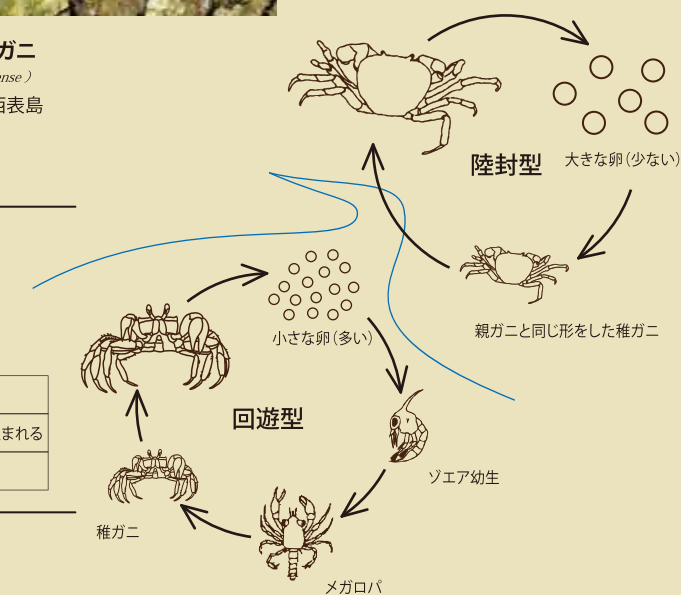
陸封型とは...

陸水(海水以外)にとどまって成長・繁殖する

回遊型とは...

産卵など、季節の移り変わりに応じて移動する

	卵の大きさ	卵の数	
陸封型	大きな卵	少ない	親ガニと同じ形をした子ガニが生まれる
回遊型	小さな卵	多い	ゾエア幼生→稚ガニになる



陸封型のエビ



陸封

イシガキヌマエビ

(Neocaridina ishigakiensis)

分布:石垣島

VU



陸封

ショキタテナガエビ

(Macrobrachium shokitai)

分布:西表島

NT



生息環境を守ろう!!

特に淡水だけで一生を過ごす陸封型の甲殻類たちは、水場から離れて生きていけません。開発土壌の流出、外来種や水質汚染など、様々な要因で絶滅が危ぶまれています。

甲殻類

07

オキナワネッタイコシビロダンゴムシ

(Cudaris sp.)

エビ・カニ・オカヤドカリ・ヨコエビなどが含まれるグループです。主に水中にすみ、エラで呼吸します。

ダンゴムシも甲殻類の仲間だよ!!



砂浜に行ったらいっぱいはいっているよ。天然記念物に指定されているからさわったり、とったりしないでね!!



ナキオカヤドカリ

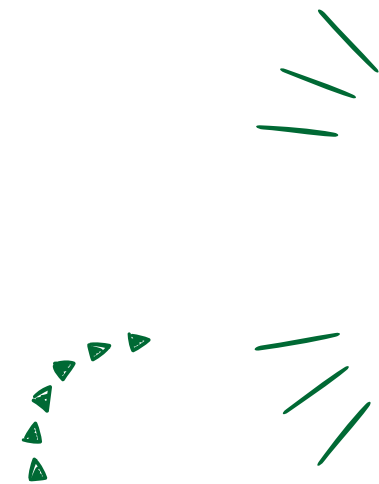
(Coenobita rugosus)

分布:奄美大島以南

国定

コケ・シダ・草本・木本など多くのグループを含みます。

熱帯性植物と温帯性植物の両方が生育することで種類の多様性が非常に高いです。また、海岸から山地までの環境の変化があることも植物たちの種類が多い要因です。



リュウキュウアセビ (ツツジ科) CR

学 名: *Pieris koidzumiana*

分 布: 沖縄島

もともと限られた地域にしか生育していませんでした。花が美しいことで持ち去られたり、ダムや林道建設などで野外のものは絶滅したと考えられています。栽培されたものは広く販売され、公園や庭木で見ることができます。



特定第一種国内希少野生動植物種とは

国内希少野生動物に指定された動植物の中で、許可を得た事業者が販売を行っていい種のこと。環境大臣及び農林水産大臣への届け出が義務付けられている。

身近で見ることができるラン科植物



ピンク



しろ

ナンゴクネジバナ (ラン科)

学 名: *Spiranthes sinensis*

分 布: 奄美群島以南

ねじれる方向が
右・左の両方あるよ!!

オキナワセッコク (ラン科) 特定国内希少 EN

学 名: *Dendrobium okinawense*

分 布: 沖縄島

生 育: 山地の樹の幹に着生する



カゴメラン
Goodyera hachijoensis
奄美群島

ラン科植物

ラン科植物が多く生育していますが、適した環境でしか生育できないものや、身近でも見られるものもあります。



クニガミトンボソウ 国内希少 CR

(*Platanthera sonoharae*)

分布: 沖縄島、西表島



カクチョウラン VU

(*Phaius tankervilleae*)

分布: 奄美群島以南



シラン NT

(*Bletilla striata*)

分布: 奄美群島以南



野生ランの乱獲が増えています

花の美しさや珍しさで野外から持ち去られてしまうことが多々あります。植物も動物も本来の環境でこそ、美しく見えるものです。鑑賞したら、持ち帰るのは、思い出とカメラに収めた画像だけにしましょう。

人間の活動が
希少な いきもの たちの命を
脅かしています。

交通事故以外でも、多くの要因があります。

- ・ 生息・生育地の減少
- ・ 過剰な採取
- ・ 外来種による影響
- ・ 地球環境の変化 など



いきものを守る仕組み 種の保存法

国内外の絶滅のおそれのある野生生物の種を保存するため、平成5年4月に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）が施行されました。

国内に生息・生育する又は、外国産の希少な野生生物を保全するため必要な措置を定めています。

個体等の取り扱い規制

捕獲、採集が減少要因となっている絶滅危惧種については、捕獲及び流通等を法律によって規制することが保全対策として有効です。また、個体、器官、加工品について商業的な流通を規制することで、違法な捕獲等を抑制することにつながります。

捕獲等の禁止	国内希少野生動植物種に指定されている生きている個体については、捕獲等（捕獲、採取、殺傷、損傷）が原則禁止されています。
譲渡等の禁止	国内希少野生動植物種及び国際希少野生動植物種の個体（生死は問わない）、器官、加工品は、販売・頒布目的の陳列・広告と譲渡等（あげる、売る、貸す、もらう、買う、借りる等）が原則として禁止されています。
輸出入の禁止	国内希少野生動植物種については、輸出及び輸入が原則として禁止されています。

罰則

違法な譲渡・捕獲・輸出入については、個人で「5年以下の懲役もしくは500万円以下の罰金」、法人で「1億円以下の罰金」が科せられます。また、違法な陳列・広告については、個人で「1年以下の懲役もしくは100万円以下の罰金」、法人で「2,000万円以下の罰金」が科せられます。

生息地等保護区

絶滅のおそれのある野生動植物を保全するためには、生息・生育地を適切に保全していくことが必要です。生息・生育地の保全のためには、指定した土地の開発行為等を規制することが効果的な場合があります。

種の保存法では、国内希少野生動植物種のうち、必要があると認める場合は、その生息地を指定しています。生息地等保護区は、管理地区と監視地区に分けられ、それぞれの地区内では、開発行為等が規制されます。

現在、奄美群島以南には久米島、石垣島の2箇所の生息地等保護区を指定しています。

管理地区	産卵地、繁殖地、餌場等、特に重要な地域について管理地区に指定されます。建築物等の新築、土地の形質変更、鉱物の採掘、水面の埋め立て、木竹の伐採等について、環境大臣の許可が必要です。
監視地区	建築物等の新築、土地の形質変更、鉱物の採掘、水面の埋め立て等について、あらかじめ環境大臣への届出が必要です。

保護増殖事業

国内希少野生動植物種のうち、その個体の繁殖の促進、生息・生育地の整備等の事業の推進をする必要がある場合は、保護増殖事業計画を策定して、保護増殖事業を実施しています。

平成31年2月現在、国内の希少野生動植物は、鳥類39種、哺乳類12種、爬虫類8種、両生類13種、魚類7種、昆虫類46種、陸産貝類19種、甲殻類6種、植物143種（内特定国内希少野生動植物種が42種）の全293種が指定されています。

奄美群島以南の種の保存法指定種リスト

科名	和名	学名
しぎ科	ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmeus</i>
しぎ科	アマミヤマシギ	<i>Scolopax mira</i>
こうのとり科	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>
はと科	キンバト	<i>Chalcophaps indica yamashinai</i>
はと科	ヨナグニカラスバト	<i>Columba janthina stejnegeri</i>
たか科	チュウヒ	<i>Circus spilonotus spilonotus</i>
たか科	カンムリワシ	<i>Spilornis cheela perplexus</i>
はやぶさ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus japonensis</i>
くいな科	ヤンバルクイナ	<i>Gallinulus okinawae</i>
ひたき科	アカヒゲ	<i>Luscinia komadori komadori</i>
ひたき科	ホントウアカヒゲ	<i>Luscinia komadori namiyei</i>
ひたき科	オオトラツグミ	<i>Zoothera dauma major</i>
きつつき科	オーストンオオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos owstoni</i>
しぎ科	ノグチゲラ	<i>Sapheopipo noguchii</i>
あほうどり科	アホウドリ	<i>Phoebastria albatrus</i>

科名	和名	学名
ねずみ科	ケナガネズミ	<i>Diplothrix legata</i>
ねずみ科	オキナワトゲネズミ	<i>Tokudaia muenninki</i>
ねずみ科	アマミトゲネズミ	<i>Tokudaia osimensis</i>
ねずみ科	トクノシマトゲネズミ	<i>Tokudaia tokunoshimensis</i>
ねこ科	イリオモテヤマネコ	<i>Prionailurus bengalensis iriomotensis</i>
おおこうもり科	ダイトウオオコウモリ	<i>Pteropus dasymallus daitoensis</i>
ひなこうもり科	リュウキュウテングコウモリ	<i>Murina ryukyuna</i>
ひなこうもり科	ヤンバルホオヒゲコウモリ	<i>Myotis yabarensis</i>
うさぎ科	アマミノクロウサギ	<i>Pentalagus furnessi</i>

科名	和名	学名
とかげもどき科	クロイワトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwa kuroiwa</i>
とかげもどき科	マダラトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwa orientalis</i>
とかげもどき科	ケラマトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwa sengokui</i>
とかげもどき科	イヘヤトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwa toyamai</i>
とかげもどき科	クメトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwa yamashinae</i>
とかげもどき科	オビトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus splendens</i>
かなへび科	ミヤコカナヘビ	<i>Takydromus toyamai</i>
なみへび科	キクザトサワヘビ	<i>Opisthotropis kikuzatoi</i>

科名	和名	学名
あかがえる科	ホルストガエル	<i>Babina holsti</i>
あかがえる科	オットンガエル	<i>Babina subaspera</i>
あかがえる科	ナミエガエル	<i>Limnonectes namiyei</i>
あかがえる科	オキナワイシカワガエル	<i>Odorrana ishikawae</i>
あかがえる科	アマミイシカワガエル	<i>Odorrana splendida</i>
あかがえる科	コガタハナサキガエル	<i>Odorrana utsunomiyaorum</i>
いもり科	イボイモリ	<i>Echinotriton andersoni</i>

科名	和名	学名
げんごろう科	フチトリゲンゴロウ	<i>Cybister limbatus</i>
くわがたむし科	ヨナグニマルバネクワガタ	<i>Neolucanus insulicola donan</i>
くわがたむし科	オキナワマルバネクワガタ	<i>Neolucanus okinawanus</i>
くわがたむし科	ウケジマルマルバネクワガタ	<i>Neolucanus protogenetivus hamai</i>
こがねむし科	ヤンバルテナゴコガネ	<i>Cheilotorus jambar</i>
こがねむし科	ヒサマツサイカブト	<i>Oryctes hisamatsui</i>
ほたる科	クメジマボタル	<i>Luciola owada</i>
せみ科	イシガキニイニイ	<i>Platyleura albivannata</i>
とんぼ科	ハネナガチョウトンボ	<i>Rhyothemis severini</i>

科名	和名	学名
おなじまい科	オオアガリマイマイ	<i>Nesiohelix omphalina bipyramidalis</i>
おなじまい科	ヘソアキアツマイマイ	<i>Nesiohelix omphalina omphalina</i>
なんばんまい科	アマノヤマタカマイマイ	<i>Satsuma amanoi</i>
なんばんまい科	ウラキヤマタカマイマイ	<i>Satsuma hemithelva</i>
なんばんまい科	イヘヤヤマタカマイマイ	<i>Satsuma theyaensis</i>

最新情報 https://www.env.go.jp/nature/kisho/domestic/list.html
--

科名	和名	学名
さわがに科	カクレサワガニ	<i>Anamiku occulta</i>
さわがに科	トカシキオオサワガニ	<i>Geothelphusa levicervix</i>
さわがに科	ミヤコサワガニ	<i>Geothelphusa miyakoensis</i>
さわがに科	ヒメユリサワガニ	<i>Geothelphusa tenuimanus</i>

科名	和名	学名
さといも科	オキナワテンナンショウ＊	<i>Arisaema heterocephalum</i> ssp. <i>okinawense</i>
さといも科	トクノシマテンナンショウ＊	<i>Arisaema kawashimae</i>
さといも科	ユズノハカズラ	<i>Pothos chinensis</i>
さといも科	サキシマハブカズラ	<i>Rhaphidophora kortharthii</i>
さといも科	ヒメハブカズラ	<i>Rhaphidophora luukuensis</i>
うまのすずくさ科	オナガサイイン＊	<i>Asarum caudigerum</i>
うまのすずくさ科	モノドラカンアオイ＊	<i>Asarum monodriflorum</i>
うまのすずくさ科	ヒナカンアオイ＊	<i>Asarum okinawense</i>
うまのすずくさ科	ヤエヤマカンアオイ＊	<i>Asarum yaeyamense</i>
ちゃせんしだ科	マキノシダ	<i>Asplenium formosae</i>
ちゃせんしだ科	イエジマチャセンシダ	<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>kezinaense</i>
ちゃせんしだ科	オトメシダ	<i>Asplenium tenerum</i>
ちゃせんしだ科	ヒメタニワタリ	<i>Hymenasplenium cardiophyllum</i>
ちゃせんしだ科	ウスイロホウビシダ	<i>Hymenasplenium subnormale</i>
きく科	ヨナクニソノギク＊	<i>Aster asagrayi</i> var. <i>walkerii</i>
きく科	ダイトウワダン	<i>Crepidium lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>
おしだ科	アマミデンダ＊	<i>Polystichum obae</i>
つつじ科	ヤドリコケモモ	<i>Vaccinium amamiyanum</i>
とうだいぐさ科	ボロジノニシキソウ	<i>Chamaesyce sparrmannii</i>
いわたばこ科	ナガミカズラ	<i>Aeschynanthus acuminatus</i>
きんもうわらび科	リュウキュウキンモウワラビ	<i>Hypodematum fordii</i>
まめ科	エダウチタヌキマメ	<i>Crotalaria uncinella</i>
まめ科	タシロマメ	<i>Intsia bijuga</i>
まめ科	ホソバフジボグサ	<i>Uraria picta</i>
まめ科	サクヤアカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>
ひかげのかずら科	ヒメヨウラクヒバ	<i>Lycopodium salvinoides</i>
きんたらのお科	ササキカズラ	<i>Ryssopterys timoriensis</i>
らん科	キバナシュスラン＊	<i>Anoectochilus formosanus</i>
らん科	コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>
らん科	オオスズムシラン	<i>Cryptostylis arachnites</i>
らん科	タカオオスズムシラン	<i>Cryptostylis taiwaniana</i>
らん科	オキナワセッコク＊	<i>Dendrobium okinawense</i>
らん科	ヤブミョウガラシ	<i>Goodyera fumata</i>
らん科	テツオサギソウ	<i>Habenaria stenopetala</i>
らん科	オオカゲロウラン	<i>Hetaeria oblongifolia</i>
らん科	コゴメキノエラン	<i>Liparis viridiflora</i>
らん科	ナンバンカモメラン＊	<i>Macodes petala</i>
らん科	オオギミラン＊	<i>Odontochilus tashiroi</i>
らん科	ヒメカクラン	<i>Phaius mishmensis</i>
らん科	クニガミトンボソウ	<i>Platanthera sonoharae</i>
らん科	イリオモテンボソウ	<i>Platanthera stenoglossa</i> ssp. <i>iriomotensis</i>
らん科	ハガクレナガミラン	<i>Thrixsperrnum fantasticum</i>
らん科	ミソボシラン	<i>Vrydagzynea nuda</i>
きじのおしだ科	リュウキュウキジノオ	<i>Plagiogyria koidzumii</i>
ひめはぎ科	リュウキュウヒメハギ	<i>Polygala longifolia</i>
たで科	アラゲタデ	<i>Persicaria attenuata</i> ssp. <i>pulchra</i>
たで科	ダイトウサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taioinsularis</i>
うらばし科	ハカマウラボシ＊	<i>Drynaria roosei</i>
くろうめもどき科	ヒメクロウメモドキ	<i>Rhamnus kanagusukui</i>
ゆきのした科	オキナフヒメウツギ	<i>Deutzia naseana</i> var. <i>amanoi</i>
ゆきのした科	ヤエヤマヒメウツギ	<i>Deutzia yaeyamensis</i>
ななばけしだ科	コモチナナバケシダ＊	<i>Tectaria fauriei</i>
ななばけしだ科	ナガバウスバシダ	<i>Tectaria kusukusensis</i>
しなのき科	ヒシノバウトリギ(アツノバウトリギ)	<i>Grewia rhombifolia</i>
しなのき科	ケナシハテルマカズラ	<i>Triumfetta procumbens</i> var. <i>glaberrima</i>
いらくさ科	ヨナクニトキホコリ	<i>Elatostema yokakuniense</i>
ばんれいし科	クロボウモドキ	<i>Polyalthia luukuensis</i>
いね科	イネガヤ	<i>Piptatherum kuoi</i>
いのもとそう科	タイワンアマクサシダ	<i>Pteris formosana</i>
あかね科	ヒジハリノキ	<i>Randia sinensis</i>

＊特定第一種国内希少野生動植物種

生きものを守る仕組み

レッドリスト

野生生物の保全のためには、絶滅のおそれのある種の情報を的確に把握し、社会からの理解を広める必要があります。このため、環境省では、日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリストを作成し、レッドリストとして公表しています。また、それらの生息状況等を解説したレッドデータブックを刊行しています。

レッドリストとは

レッドリストは専門家による科学的・客観的な評価をとりまとめた基礎的資料であり、捕獲規制等の法的な拘束力があるものではありませんが、社会への警鐘として広く情報を提供することで、様々な場面で活用されることを期待しています。動物では、①哺乳類 ②鳥類 ③爬虫類 ④両生類 ⑤汽水・淡水魚類 ⑥昆虫類 ⑦貝類 ⑧その他無脊椎動物（クモ形類、甲殻類等）の分類群ごとに、植物では、⑨植物Ⅰ（維管束植物）及び ⑩植物Ⅱ（維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）の分類群ごとに作成しています。

絶滅のおそれのある種のカテゴリ（ランク）

絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ類」に移行する可能性のある種
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

個々の解説に示されている記号

レッドリストカテゴリー：

EX

EW

CR+EN

CR

EN

VU

NT

DD

LP

種の保存法：

特定国内希少

：特定第一種国内希少野生動植物種

国内希少

：国内希少野生動植物種

天然記念物：

国特天

：国指定特別天然記念物

国天

：国指定天然記念物

県天

：県指定天然記念物

【天然記念物】

文化財保護法や各地方自治体の文化財保護条例に基づき指定される



アサヒナキマダラセセリ



ヤンバルホオヒゲコウモリ



ノグチゲラ



コウトウシュウカイドウ

生きものを守る仕組み

外来生物法

外来種による生態系、農林水産業、人の生命・身体への被害を防止するため、平成17年10月に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が施行されました。被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものを「特定外来生物」に指定し、飼育・栽培・保管・運搬・販売・輸入などが原則と

して禁止されています。また、侵略的な外来種の被害を防止することを目的に各地域で防除活動を進めています。原因となった行為をした者に対しては、防除に必要な費用の一部または全部を負担していただく場合もあります。

罰則

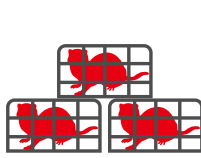
外来生物法に違反した場合、最高で個人の場合3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金、又はこれを併科。法人の場合1億円以下の罰金が課せられる場合があります。

外来生物法で規制される事項

飼育・栽培



保管



運搬



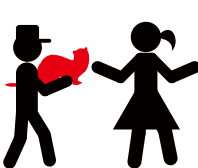
野外に放つ・植える・まく



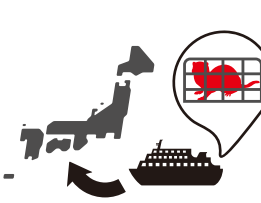
販売



許可を受けていない者に対しての譲渡など



輸入



外来種被害予防三原則

入れない	悪い影響を及ぼすかもしれない外来種をむやみに自然分布域から非分布域へ入れない
捨てない	ペットとして飼ったり栽培している外来種を自然の中に逃がさない、放さない
拡げない	自然のなかにいる外来種を他の地域に生きたまま持ち出さない、増やさない



他の植物に覆いかぶさりながら広がるツルヒヨドリ（特定外来生物）



シロアゴガエル（特定外来生物）



グリーンアノール（特定外来生物）

実行しよう!! 一人ひとりができること

森には多種多様ないきものが生息・生育しています。自然保護の観点から、動植物の採取・捕獲・他の場所からの持ち込み・持ち出しなどを行わないようご注意ください。豊かな自然を守りながら、次世代へ受け継ぐためにも皆様一人ひとりのご協力をお願いいたします。



ゆっくりドライブ ♪

希少ないきものたちの交通事故“ロードキル”が多発しています。自然や人にも優しい運転で、ゆっくりドライブを心がけよう。



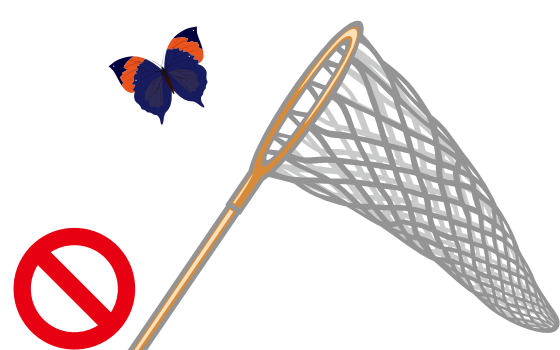
森では遊歩道・登山道を歩こう ♪

森はいきものたちの生活の場所です。毒をもつハブも生活しています。森に入る際は、遊歩道や決められたルート以外は歩かず、利用のルールを守りましょう。



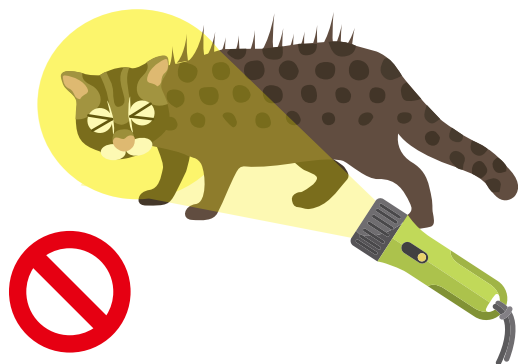
外来種やペットをはなさない!!

外来種やペットの持ち込みによって、昔からこの地で生きてきた希少ないきものたちの生命が脅かされています。ペットは責任をもって最後まで飼いましょう。



とらない!! 持ち帰らない!!

希少ないきものを手にとったり、持ち帰ったりするのはやめましょう。法律違反として罰せられる場合があります。



むやみにライトで照らさない!!

森はいきものたちが安心して暮らす場所です。ライトの光が強すぎると目がくらみ、いきものたちの生活に影響を与えてしまいます。



もともといた場所から移動させない!!

同じ種のように見えても、違う場合があります。また、同じ県内だからといって、島から島へいきものを移動させるのはやめましょう。

行ってみよう!! 野生生物保護センター

環境省では、希少種が生息する地域の現場で保護増殖事業等を総合的に推進する拠点施設として、野生生物保護センターを設置しています。センターでは、展示や映像などにより来訪者への解説や普及啓発を行うとともに、調査研究などにも取り組んでいます。

奄美野生生物保護センター

〒894-3104 鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

TEL : 0997-55-8620 URL : <http://amami-wcc.net/>

奄美群島に生息する希少な野生生物の保護増殖事業、調査研究などを推進する拠点です。また、希少種を含む奄美固有の生態系について解説し、保護への理解や関心を深めてもらう普及啓発活動なども行っています。

開館時間 9:30～16:30
休館日 毎週月曜(祝日を除く)、年末年始(12月29日～1月3日)

やんばる野生生物保護センター

〒905-1413 沖縄県国頭郡国頭村比地263番地-1

TEL : 0980-50-1025 URL : <http://www.ufugi-yambaru.com/>

沖縄県北部のやんばる地域に生息する希少な野生生物の保護増殖事業、調査研究などを推進する拠点です。また、やんばる地域固有の生態系について理解や関心を深めてもらう普及啓発活動なども行っています。

開館時間 10:00～16:30
休館日 毎週月曜、祝祭日(みどりの日 5/4、こどもの日 5/5を除く)、
慰霊の日 6/23、年末年始 12/29～1/3

西表野生生物保護センター

〒907-1432 沖縄県八重山郡竹富町字古見

TEL : 0980-85-5581 URL : <http://iwcc.a.la9.jp/>

イリオモテヤマネコをはじめとする西表島に生息する希少な野生生物の保護増殖事業、調査研究などを推進する拠点です。また西表島の生態系について理解や関心を深めてもらう普及啓発活動なども行っています。

開館時間 10:00～16:00 ※土日は12:00～13:00一時閉館
休館日 毎週月曜、祝祭日(こどもの日 5/5、文化の日 11/3を除く)、
慰霊の日 6/23、年末年始 12/29～1/3

※各施設ごとに臨時休館となる場合がございます。訪問前にHPなどでご確認ください。

「奄美・沖縄の希少ないきもの」

平成31年2月発行

写真提供：城ヶ原 貴通、鈴木 幸路、田村 常雄、Natural Box 株式会社
一般財団法人 自然環境研究センター、漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会、環境省那覇自然環境事務所

編集・発行：環境省 那覇自然環境事務所 〒900-0022 沖縄県那覇市樋川1丁目15番15号 那覇第一地方合同庁舎1階

